

3. 介護保険システム

3. 介護保険システム

全国共通の標準システムとして整備が行われてきた現行の介護保険システム(以降、現行システムとする)は、平成 26 年に国保連合会の他システムに先駆け、共同運用センターの仮想化サーバ上に一部サーバの集約化を実施した。次期の介護保険システム(以降、次期システムとする)では、「セキュリティ強化に対して迅速かつ統一された対応を可能とすること」、「システムコストの低減」を目的とし、以下の2点の対応を行う。

- ① 審査支払 DB サーバ等の主要機能をすべて共同運用センターに集約する(以降、「完全一拠点化」と呼ぶ)。
- ② 現行システムで蓄積した仮想化サーバに関するノウハウの活用、及びハードウェアスペックの向上によりサーバ統合率を高め、物理的なサーバ台数を削減する。

また、次期システムでの業務ロジック改修は、初期導入時は制度改正・報酬改定又は法令等に基づいて対応が必須となるものに限定し、それ以外の機能拡充(使い勝手の向上、独自処理システム機能の取込み等)は原則として行わず、改修を極小化する。

3.1. 介護保険システムの概要

3.1.1. システム全体イメージ

現行システムの全体像を以下に示す。(共同運用センター及び国保中央会については一部記載を省略している)

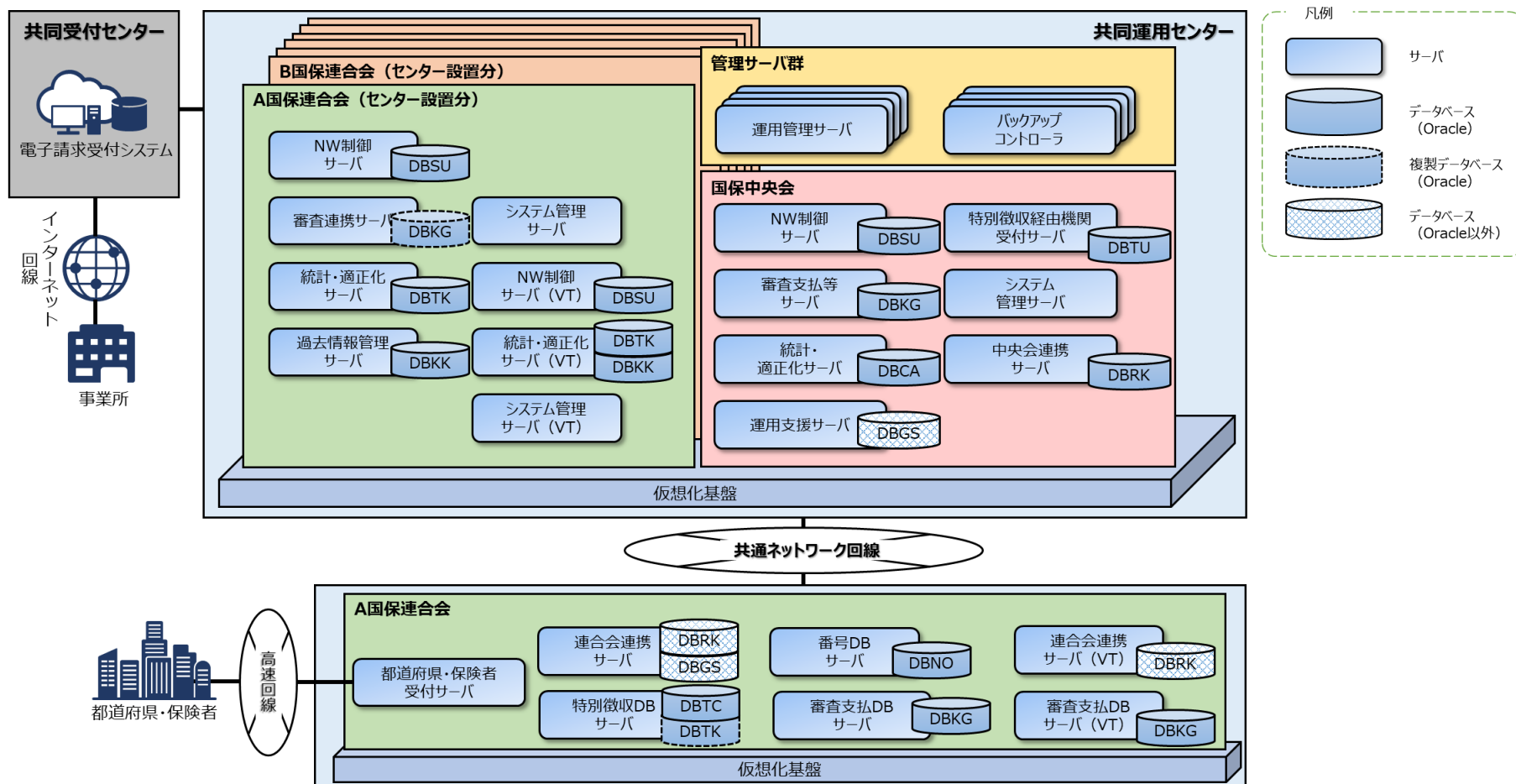


図 3-1 現行システム全体イメージ

機2：関係者限り

次期システムの全体像を以下に示す。(共同運用センター及び国保中央会については一部記載を省略している)

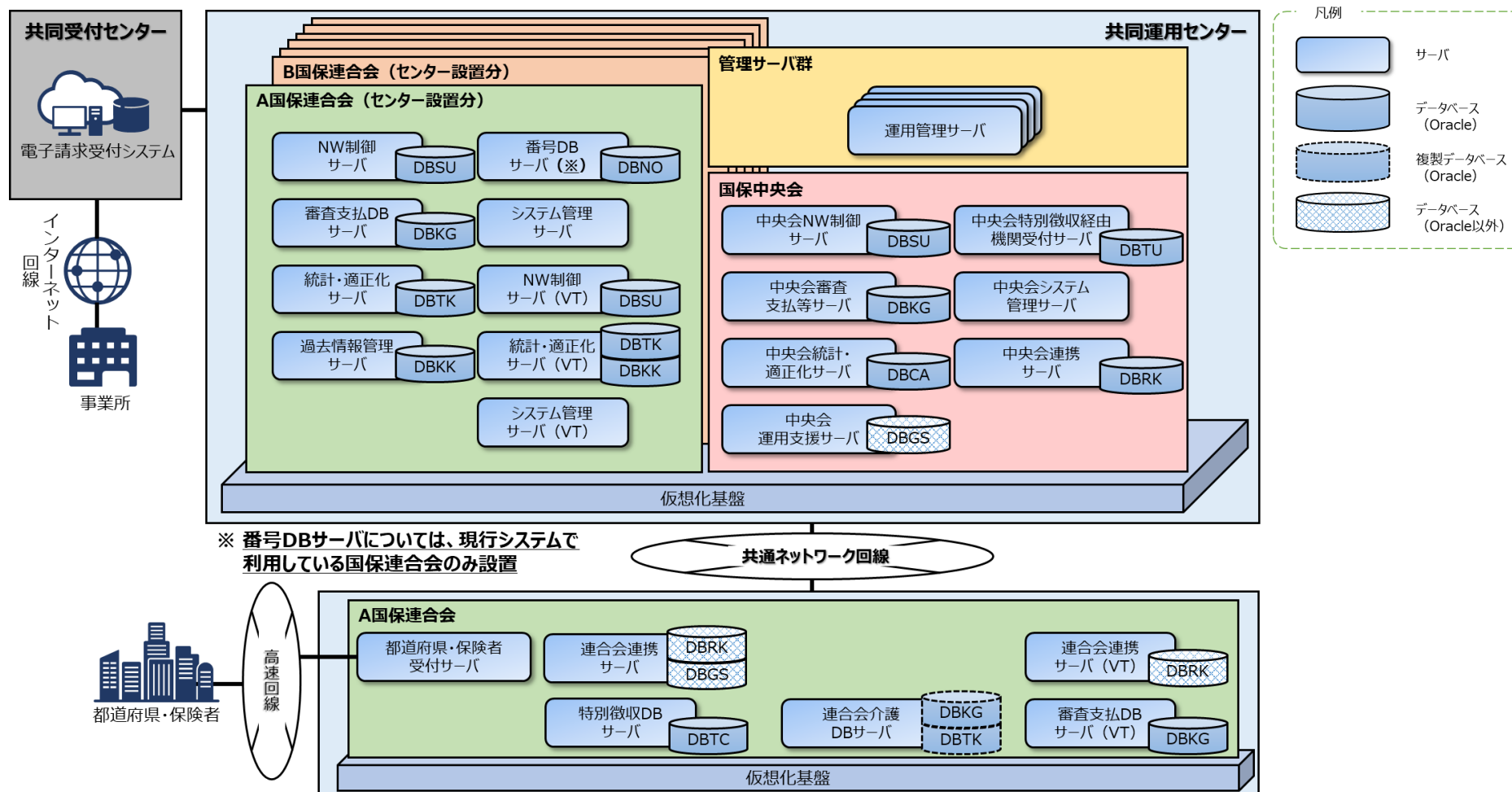





図 3-2 次期システム全体イメージ

3.1.2. 現行システムからの主な変更点

現行システムとの主な変更点について記載する。

<現行システムからの変更点>

- (1) サーバの新設、移設、廃止
- (2) データベース同期対象サーバの変更、データファイルの同期方式の変更
- (3) システム終了処理の方式変更
- (4) ストレージ装置の廃止
- (5) 国保連合会設置環境のバックアップ方式の変更
- (6) JP1/AJS-UJOからJP1/AJS-Viewへの変更(運用メニューの廃止)
- (7) クライアント、プリンタの本番系、VT系での共用
- (8) 独自処理システムからの接続先サーバ変更

[凡例]
 : データベース、ファイルの同期
 : 独自処理システムのアクセス
 : 伝送のアクセス

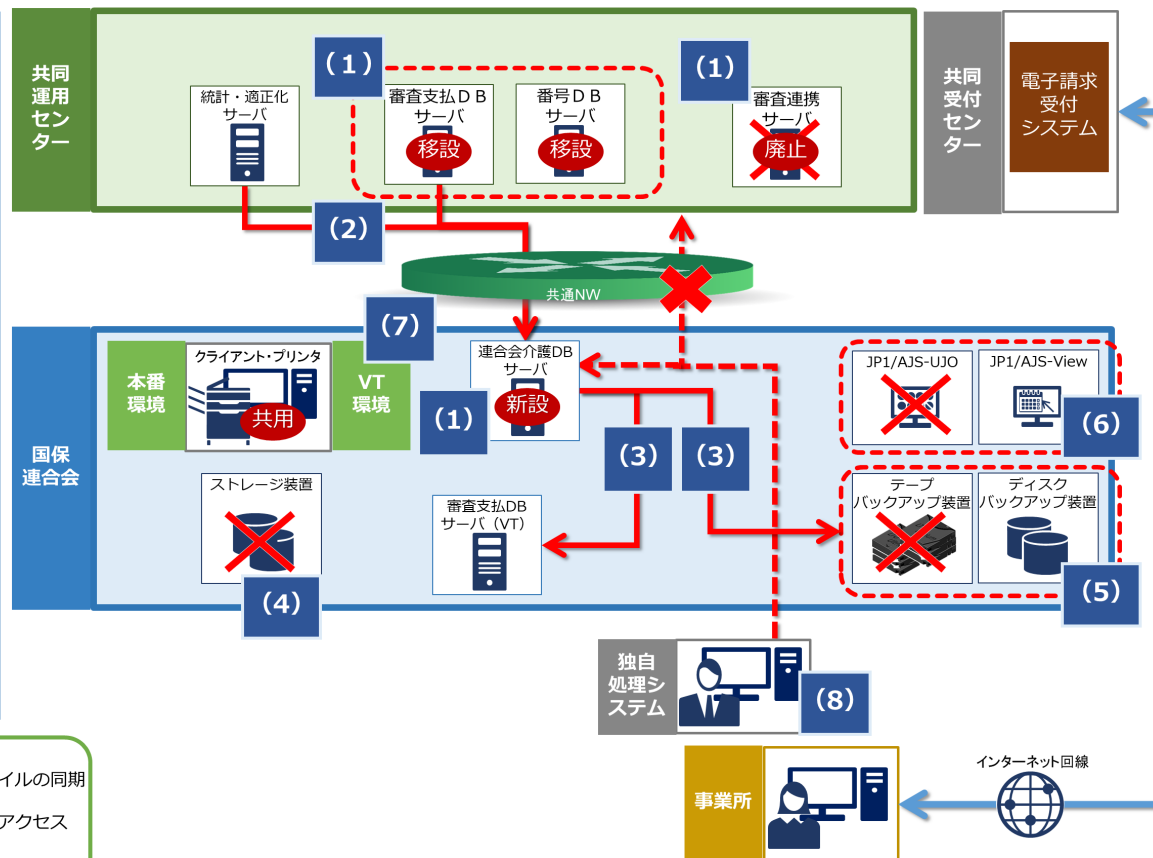


図 3-3 現行システムとの主な変更点

(1) サーバの新設、移設、廃止

現在国保連合会設置の審査支払 DB サーバ及び番号 DB サーバについて、共同運用センターへ移設する。

番号 DB サーバについては、必要最低限のサーバを設置する。(①)

これにより、サーバ集約率を上げることでコスト削減を図る。

本移設により国保連合会から共同運用センター設置の審査支払 DB サーバへのデータ参照、更新等が出来なくなるため、審査支払 DB サーバのデータを持つサーバとして国保連合会に連合会介護 DB サーバを新設する。(②)

これまで審査支払 DB サーバのデータ同期先サーバであった審査連携サーバについては廃止する。(③)

① 移設

国保連合会に設置していた審査支払 DB サーバ、番号 DB サーバを共同運用センターに移設

② 新設

連合会介護 DB サーバを国保連合会に新設

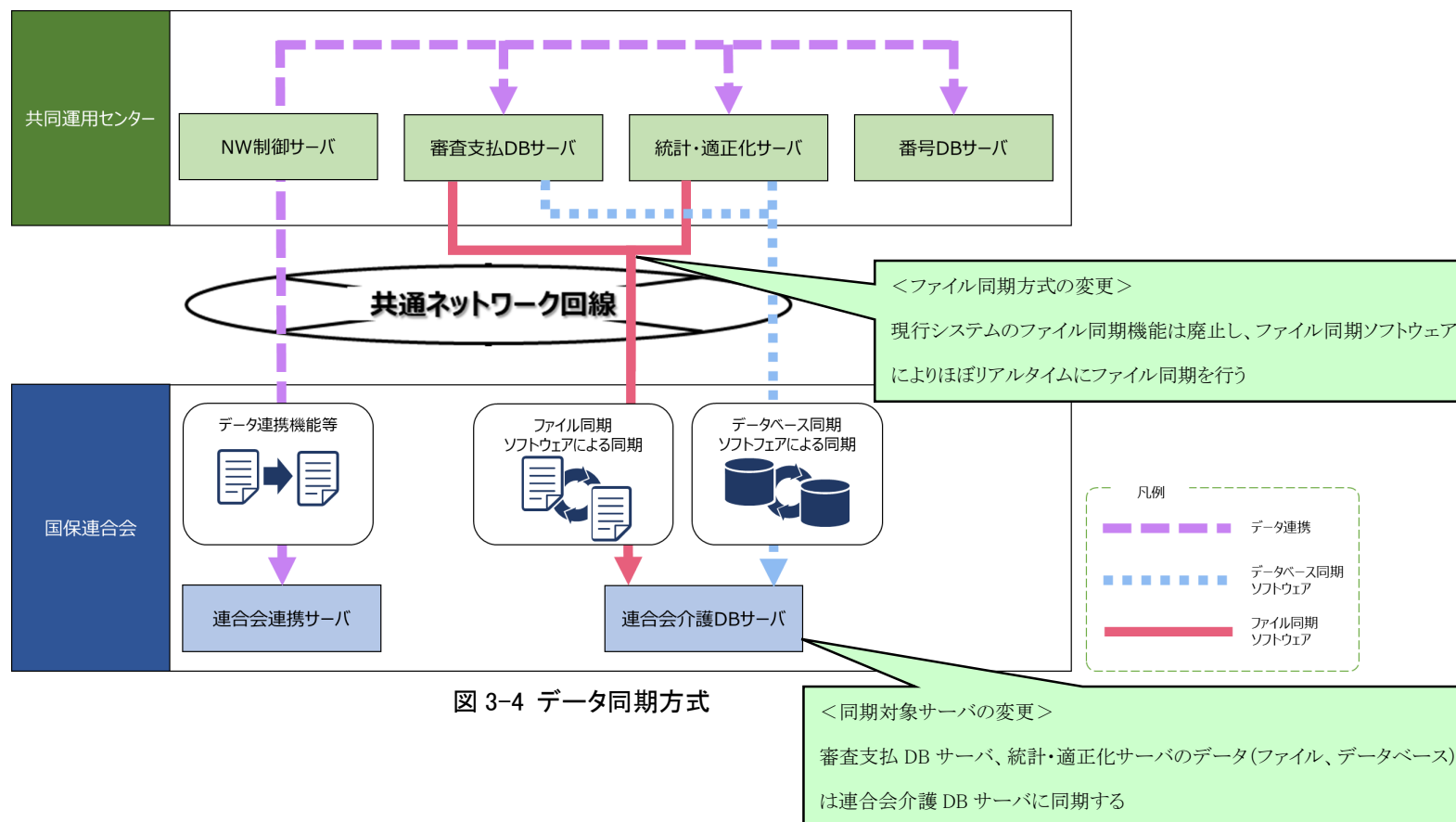
③ 廃止

共同運用センターに設置していた審査連携サーバの廃止

(2) データベース同期対象サーバの変更、データファイルの同期方式の変更

標準システムで使用する業務データの連携は、データ連携機能等を用いて行う。また、バックアップ及び独自処理システムでの使用を目的として、共同運用センター設置の審査支払 DB サーバ、統計・適正化サーバのデータは、データベース同期ソフトウェアによる機能、ファイル同期ソフトウェアによる機能を使用して国保連合会設置の連合会介護 DB サーバに同期する。

各データの同期方式を以下に示す。



(3) システム終了処理の方式変更

次期システムでは従来のサーバ、ストレージを組み合わせた構成からハードウェアの保守・管理の効率化を図る事を目的にハイパーコンバージドインフラストラクチャ(以降、HCIとする)のみの構成に変更する。

HCI ではレプリケーション機能を用いたバックアップや複製(VT 系へのデータ更新)が利用不可となり、ネットワークを利用したバックアップ方式となる。

レプリケーションを用いたバックアップと比較し、ネットワークを利用したバックアップでは処理(サーバ停止)が長時間となるため、システム終了処理(週次)、システム終了処理(VT 更新)、第3週末終了処理、月次終了処理については週末のみの実行に制限する。

システム終了処理(VT 更新)は、本番系サーバのデータを用いて VT 系サーバのデータを更新するが、共同運用センターに移設する審査支払 DB サーバについては、VT 系の審査支払 DB サーバ(VT)が国保連合会にあるため、拠点を跨いだデータ更新が必要となる。

審査支払 DB サーバのデータは国保連合会に新設する連合会介護 DB サーバに同期するため、審査支払 DB サーバ(VT)のデータは連合会介護 DB サーバのデータを基に更新する。

なお、個人番号業務に係る業務開始処理(番号)及び業務終了処理(番号)については、通常の業務開始処理、業務終了処理に統合する。また、番号システム終了処理(日次)についてはシステム終了処理(日次)、番号システム終了処理(週次)についてはシステム終了処理(週次)、システム終了処理(VT 更新)、第3週末終了処理、月次終了処理の各システム終了処理に統合する。

(4) ストレージ装置の廃止

次期システムでは従来のサーバ、ストレージによる組み合わせから HCI にハードウェア構成を変更する。国保連合会にストレージ機器を設置しないことにより、設置スペースの削減を図る。

(5) 国保連合会設置環境のバックアップ方式の変更

国保連合会におけるバックアップではバックアップ媒体を LTO テープとしているが、可動部分の故障やオペレーションミスを考慮し、ディスクストレージ型のバックアップ専用アプライアンスに変更する。

(6) JP1/AJS-UJ0 から JP1/AJS-View への変更（運用メニューの廃止）

次期システムにおいて、JP1 のバージョンが Ver.9 から Ver.11 に更改となる。

Ver.11 では運用メニューで使用している JP1/Automatic Job Management System 3 -User Job Operation が販売終了となり、運用メニューの移行が出来ないことから、運用メニューを廃止する。

これに伴い、従来運用メニューから起動していた業務開始処理、業務終了処理、システム終了処理等運用ジョブの起動について、JP1/Automatic Job Management System 3 の標準ビューアーである JP1/Automatic Job Management System 3 - View からの起動に変更する。

(7) クライアント、プリンタの本番系、VT 系での共有

現行システムでは本番環境と VT 環境の Active Directory ドメインが異なるため、クライアント(運用管理クライアント、業務クライアント)を各環境で共用する場合、接続時にホスト名、IP アドレスを切替える必要がある。

次期システムでは、本番環境と VT 環境の Active Directory ドメインを統一するため、各環境への接続時にログインユーザの変更のみで利用可能となる。

また、プリンタについても現行システムでは本番環境と VT 環境で共用している場合、接続の切り替えや IP アドレス変更が必要だが、次期システムでは両環境から設定変更せずに共用したプリンタに出力が可能となる。

なお、本番環境と VT 環境でのプリンタ共用における帳票出力において、出力先トレイの割り当てによって出力帳票が混在しないよう対応可能とするが、両環境からの同時帳票出力時においては出力待ちによる遅延が発生するため、帳票印刷の運用方法(VT 環境からの帳票出力頻度等)を見直して頂く必要がある。

(8) 独自処理システムからの接続先サーバ変更

審査支払 DB サーバは独自処理システムから接続ができないため、独自処理システムから審査支払DBサーバのデータを参照する場合は、DB・ファイルの同期先である連合会介護DBサーバに接続先を変更する必要がある。

また、審査支払 DB サーバのデータベースを更新しなければいけない要件がある場合は、更新ツールを提供する予定。

詳細は「3.4 独自処理システム向け環境」に示す。